

**江田島市**  
**第3次地球温暖化対策実行計画**  
**(市役所の取組)**  
**令和4年度年次報告書**

**令和6年3月**

**江田島市**

# 目次

---

## 第1章 計画の背景 ..... 1

- 1 計画の位置付け及び意義・目的 ..... 1
- 2 計画の期間 ..... 2
- 3 対象範囲 ..... 2
- 4 調査対象とする温室効果ガス ..... 2
- 5 温室効果ガス排出量の算定手順 ..... 4
- 6 基準年の温室効果ガス排出量及び温室効果ガス削減目標 ..... 5

## 第2章 令和4（2022）年度温室効果ガス排出状況 ..... 6

- 1 総排出量 ..... 6
- 2 施設別排出状況 ..... 8
- 3 排出源別排出状況 ..... 9
- 4 排出量が増加した施設 ..... 21
- 5 排出量が減少した施設 ..... 22

## 第3章 実行計画の目標達成状況 ..... 24

- 1 目標達成状況 ..... 24
- 2 今後の方針 ..... 24

# 第1章 計画の背景

## 1 計画の位置付け及び意義・目的

本市では、「地球温暖化対策の推進に関する法律」（以下「温対法」という。）第21条で定められる「市町村の事務及び事業に関し、温室効果ガスの排出の量の削減等のための措置に関する計画」として、令和3（2021）年3月に「江田島市第3次地球温暖化対策実行計画（市役所の取組）」（以下「本計画」という。）を策定し、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

意義・目的の計画策定の	法令の遵守（温対法）
	市の事務・事業における省エネルギーを主体とした地球温暖化対策の推進
	市民・事業者への普及啓発を目的とした行政の率先行動
	エネルギー消費量削減による経費節減

なお、温対法では第21条第15項の規定により毎年1回措置及び施策の実施状況を公表することが義務付けられており、本報告書はこの規定に基づいて、令和4（2022）年度の温室効果ガス排出状況を報告するものです。

地球温暖化対策の推進に関する法律（抜粋） （平成十年十月九日法律第百十七号）  （地方公共団体実行計画等） 第二十一条 都道府県及び市町村は、単独で又は共同して、地球温暖化対策計画に即して、当該都道府県及び市町村の事務及び事業に関し、温室効果ガスの排出の量の削減等のための措置に関する計画（以下「地方公共団体実行計画」という。）を策定するものとする。 2 地方公共団体実行計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。 一 計画期間 二 地方公共団体実行計画の目標 三 実施しようとする措置の内容 四 その他地方公共団体実行計画の実施に関し必要な事項 ～ 中略 ～ 13 都道府県及び市町村は、地方公共団体実行計画を策定したときは、遅滞なく、単独で又は共同して、これを公表しなければならない。 14 第九項から前項までの規定は、地方公共団体実行計画の変更について準用する。 15 都道府県及び市町村は、単独で又は共同して、毎年一回、地方公共団体実行計画に基づく措置及び施策の実施の状況（温室効果ガス総排出量を含む。）を公表しなければならない。 16 都道府県及び市町村は、地方公共団体実行計画を達成するため必要があると認めるときは、関係行政機関の長又は関係地方公共団体の長に対し、必要な資料の送付その他の協力を求め、又は温室効果ガスの排出の量の削減等に関し意見を述べることができる。 17 前各項に定めるもののほか、地方公共団体実行計画について必要な事項は、環境省令で定める。	最終改正：令和五年四月一日
--	---------------

## 2 計画の期間

---

**基準年** : 平成26（2014）年度

国の「地球温暖化対策計画」では平成25（2013）年度を基準年としていますが、所有している温室効果ガス排出量のデータは平成25（2013）年度のデータに比べ平成26（2014）年度のデータの方がより精度が高いため、今後の進捗管理も踏まえ、本計画では平成26（2014）年度を基準年とします。

**計画期間** : 令和3（2021）年度～令和7（2025）年度（5年間）

国の「地球温暖化対策計画」の目標年度に準じて、令和12（2030）年度を長期目標年度として設定したうえで、本計画における目標年度については令和7（2025）年度とします。

ただし、社会状況の変化や技術的進歩、実務の妥当性などを踏まえ、必要に応じた見直しを行います。

---

## 3 対象範囲

---

**対象施設** : 本市が管理する全事務事業

地方公共団体実行計画（事務事業編）策定・改訂の手引きが平成29（2017）年に改訂されたため、本計画では、本市が管理する全事務事業（直接管理施設及び指定管理施設）とします。

---

## 4 調査対象とする温室効果ガス

---

**対象ガス** : 二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）

温対法では、表 1-1 に示す7種類の温室効果ガス（7ガス）が削減の対象となります。ただし、メタン（CH<sub>4</sub>）、一酸化二窒素（N<sub>2</sub>O）、ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）は排出量の算定が困難であること、パーフルオロカーボン類（PFCs）、六ふつ化硫黄（SF<sub>6</sub>）、三ふつ化窒素（NF<sub>3</sub>）は市の事務事業からの発生が想定されないことから、排出量把握の対象から除外します。

---

表 1-1 対象とする温室効果ガス及び排出源

	ガス種	排出源
調査対象	二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>●化石燃料の燃焼</li> <li>●電気の使用</li> </ul>
	メタン (CH <sub>4</sub> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>●化石燃料の燃焼</li> <li>●農業分野（稲作、家畜の消化管内発酵や排泄物処理等） 等</li> </ul>
調査対象外	一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●化石燃料の燃焼</li> <li>●農業分野（農用地の土壌、家畜の排泄物処理等） 等</li> </ul>
	ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●エアコン、冷蔵庫などの冷媒ガス</li> <li>●発泡剤・断熱材</li> </ul>
	パーフルオロカーボン類 (PFCs)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●半導体の製造 等</li> </ul>
	六ふっ化硫黄 (SF <sub>6</sub> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電気絶縁ガス 等</li> </ul>
	三ふっ化窒素 (NF <sub>3</sub> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>●液晶パネル製造、半導体の製造</li> </ul>

## 5 温室効果ガス排出量の算定手順

温室効果ガス排出量は、ガス種ごとにガスの排出に関わる活動量を求め、各々の活動量に対して設定された排出係数及び地球温暖化係数（GWP）を掛け合わせた排出量の総和として求められます。

$$\text{【温室効果ガス排出量】} = \text{【活動量】} \times \text{【排出係数】} \times \text{【地球温暖化係数】}$$

### 活動量、排出係数及び地球温暖化係数（GWP）

温室効果ガス排出の要因となる電気・燃料使用量等を示します。

温室効果ガス排出量算定に用いる排出係数は表 1-2 のとおりです。

なお、電気の使用に伴う係数については、環境省より毎年度公表される「電気事業者別二酸化炭素排出係数」の基礎排出係数を用いることとします。

また、地球温暖化係数（GWP）は、CO<sub>2</sub>を基準としてガス種ごとの地球温暖化への影響度を示す数値のことです。本計画ではCO<sub>2</sub>のみを調査対象とすることから、CO<sub>2</sub>を算定する上ではGWP= 1となります。

表 1-2 CO<sub>2</sub>排出に関わる排出係数

排出源（活動量）	排出係数（活動量ベース）		地球温暖化係数
	数値	単位	
燃料の使用に伴う排出			
ガソリン L	2.32	kg-CO <sub>2</sub> /L	1
軽油 L	2.58	kg-CO <sub>2</sub> /L	1
灯油 L	2.49	kg-CO <sub>2</sub> /L	1
A重油 L	2.71	kg-CO <sub>2</sub> /L	1
液化石油ガス（LPG） m <sup>3</sup>	5.97	kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	1
外部から供給された電気の使用に伴う排出			
中国電力(株)（平成26年度） kWh	0.719	kg-CO <sub>2</sub> /kWh	1
中国電力(株)（令和3年度） kWh	0.531	kg-CO <sub>2</sub> /kWh	1
中国電力(株)（令和4年度） kWh	0.529	kg-CO <sub>2</sub> /kWh	1

## 6 基準年の温室効果ガス排出量及び温室効果ガス削減目標

### (1) 基準年（平成26（2014）年度）の温室効果ガス排出量

平成26（2014）年度温室効果ガス排出量

**7,615 t-CO<sub>2</sub>**

### (2) 温室効果ガス削減目標

#### 温室効果ガス削減目標

令和7（2025）年度の温室効果ガス排出量を  
平成26（2014）年度比**31.8%**削減（**2,422 t-CO<sub>2</sub>**削減）

#### 中期目標（目標年度：令和7（2025）年度）

平成26（2014）年度（基準年）排出量 : 7,615 t-CO<sub>2</sub>  
平成26（2014）年度（基準年）比 : 31.8%削減（▲2,422 t-CO<sub>2</sub>）  
令和7（2025）年度排出量 : 5,193 t-CO<sub>2</sub>

#### 長期目標（目標年度：令和12（2030）年度）

平成26（2014）年度（基準年）排出量 : 7,615 t-CO<sub>2</sub>  
平成26（2014）年度（基準年）比 : 39.8%削減（▲3,031 t-CO<sub>2</sub>）  
令和12（2030）年度排出量 : 4,584 t-CO<sub>2</sub>

## 第2章 令和4（2022）年度温室効果ガス排出状況

### 1 総排出量

令和4（2022）年度における本市の事務事業に伴い排出された温室効果ガス排出量は5,137 t-CO<sub>2</sub>となり、基準年比で32.5%減少しています。なお、温室効果ガス排出量の増減には、新型コロナウイルス感染症対策による施設の稼働状況や空調の使用状況等の変化による影響を含んでいるものと考えられます。

令和4（2022）年度	5,137 t-CO <sub>2</sub> (基準年比▲32.5% ▲2,478 t-CO <sub>2</sub> )
-------------	---

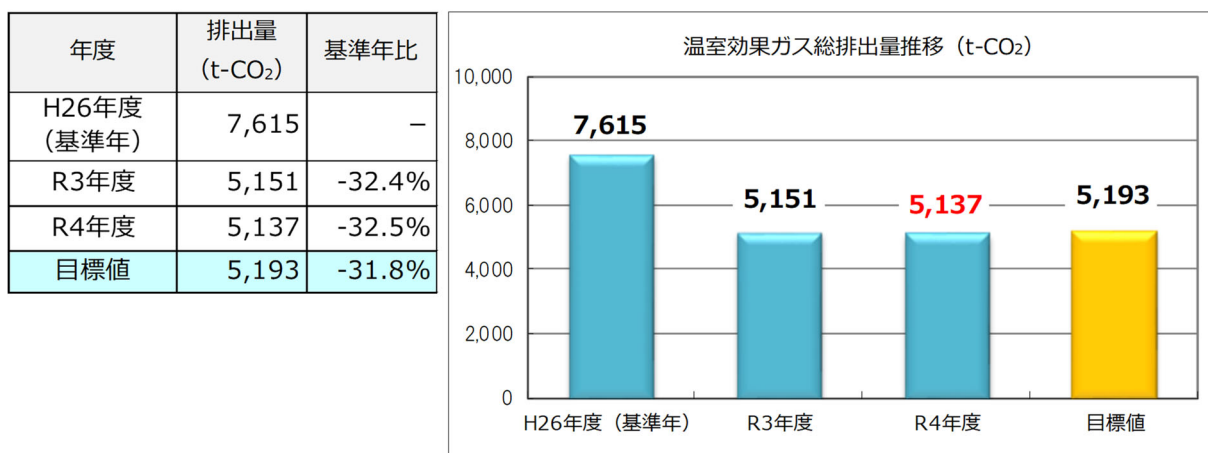


図 2-1 温室効果ガス総排出量の推移

- 電気使用に伴う排出が全体の87.6%を占め、以下、ガソリン(3.6%)、A重油(3.4%)、灯油(2.1%)、軽油(2.1%)、LPG(1.1%)と続いています。
- 温室効果ガスの削減には、電気使用量の削減が有効となります。

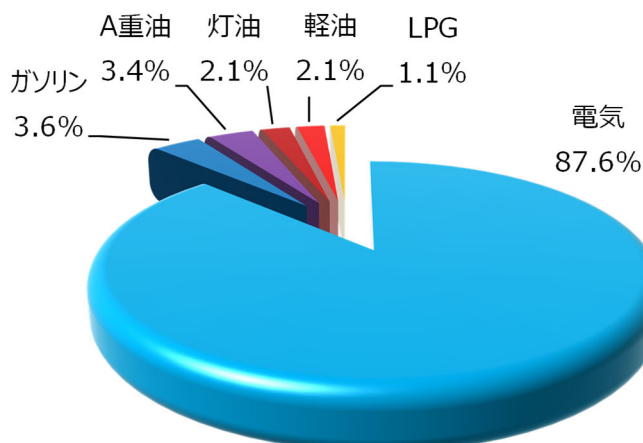


図 2-2 排出源構成

- 排出源別の基準年比増減状況を見ると、ガソリンを除く全ての項目において排出量が減少しています。

表 2-1 排出源別温室効果ガス排出量推移

(単位：t-CO<sub>2</sub>)

項目	平成26（2014）年度 （基準年）		令和3（2021）年度		令和4（2022）年度				
	使用量	排出量	使用量	排出量	使用量	排出量	増減量 （基準年比）	増減率 （基準年比）	
燃料	ガソリン	69,530 L	161	62,856 L	146	79,317 L	184	23	14.1%
	軽油	48,953 L	126	41,587 L	107	41,786 L	108	-18	-14.6%
	灯油	61,394 L	153	46,650 L	116	44,153 L	110	-43	-28.1%
	A重油	186,784 L	506	72,510 L	197	64,540 L	175	-331	-65.4%
	LPG	30,397 m <sup>3</sup>	181	10,670 m <sup>3</sup>	64	9,784 m <sup>3</sup>	58	-123	-67.8%
電気	9,022,968 kWh	6,488	8,515,864 kWh	4,522	8,510,140 kWh	4,502	-1,986	-30.6%	
合計	—	7,615	—	5,151	—	5,137	-2,478	-32.5%	

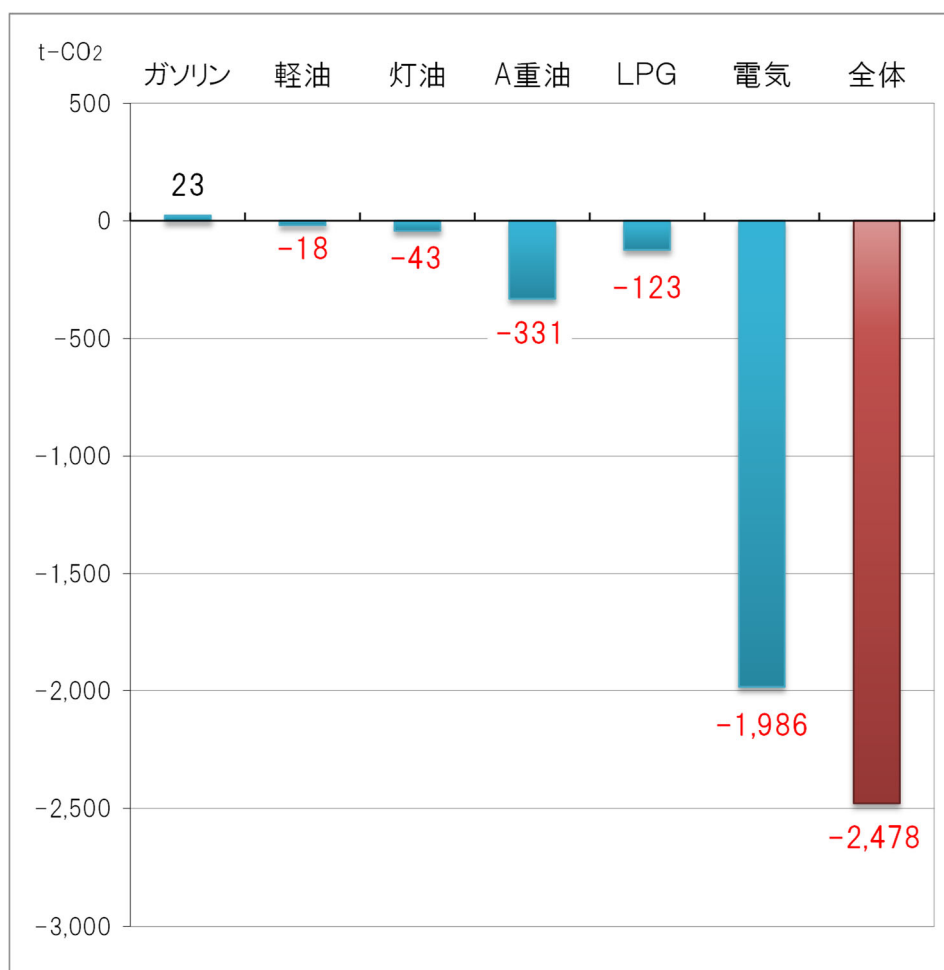


図 2-3 排出源別増減状況（基準年比）

## 2 施設別排出状況

- 排出量上位10施設は、前早世浄水場をはじめとする浄水場、浄化センター、ポンプ室など、生活関連事業に携わる施設が多くなっています。
- 排出量上位10施設での排出源別排出構成では、サンビーチおきみでのガソリン及びA重油、消防本部でのガソリン、環境センターでの軽油、西能美学校給食共同調理場での灯油使用に伴う排出が目立つものの、電気使用に伴う排出が大勢を占めています。

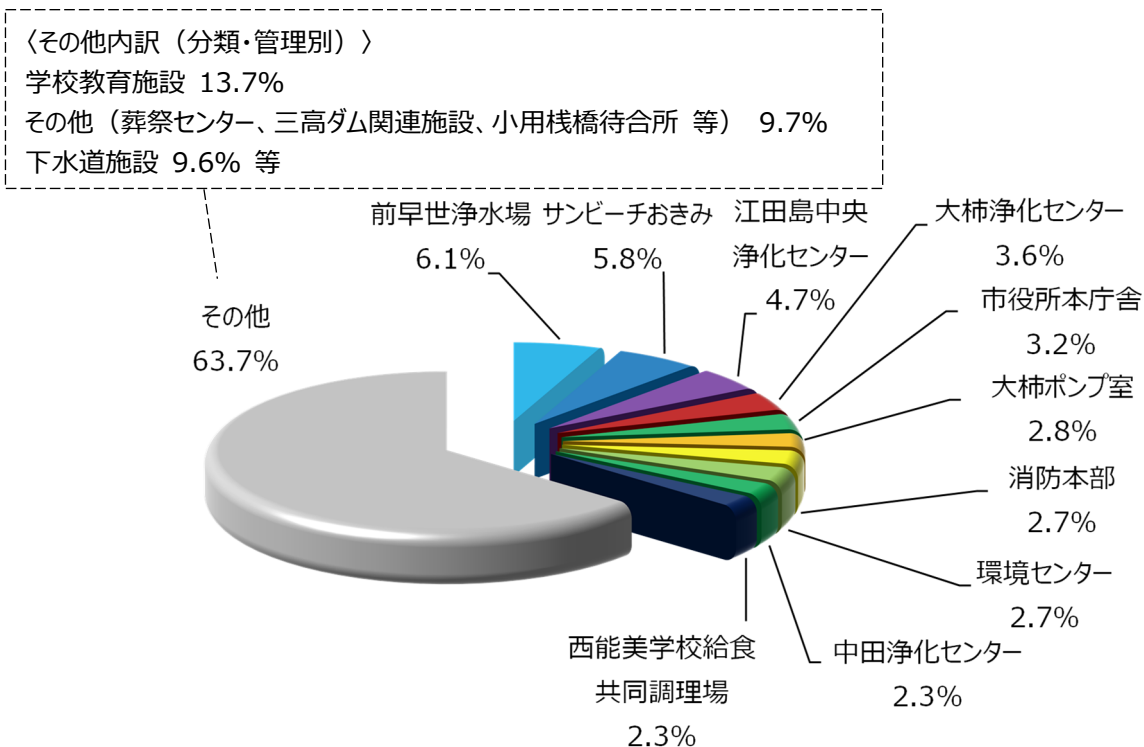


図 2-4 施設別排出構成

表 2-2 施設別排出源別排出量（上位10施設内訳）

(単位：kg-CO<sub>2</sub>)

	ガソリン	軽油	灯油	A重油	LPG	電気	総排出量
前早世浄水場	0	0	0	0	0	314,439	314,439
サンビーチおきみ	43,920	999	0	73,170	6,612	173,274	297,976
江田島中央浄化センター	0	0	0	0	0	239,108	239,108
大柿浄化センター	0	0	0	0	0	187,266	187,266
市役所本庁舎	0	0	0	0	0	162,601	162,601
大柿ポンプ室	0	0	0	0	0	141,855	141,855
消防本部	22,242	10,338	50	0	1,493	107,107	141,229
環境センター	2,249	22,233	0	0	2,146	114,491	141,120
中田浄化センター	0	0	0	0	0	118,496	118,496
西能美学校給食共同調理場	0	5,652	23,849	0	5,295	83,645	118,441
その他	115,604	68,586	86,042	101,733	42,864	2,859,582	3,274,411
合計	184,015	107,808	109,941	174,903	58,409	4,501,864	5,136,941

### 3 排出源別排出状況

#### (1) 電気

令和4（2022）年度	4,502 t-CO <sub>2</sub> (基準年比▲30.6% ▲1,986 t-CO <sub>2</sub> )
-------------	---

- 電気使用に伴う排出は全体の87.6%を占めています。(6頁図 2-2参照)
- 令和4（2022）年度の排出量は4,502 t-CO<sub>2</sub>となり、基準年比で30.6%（1,986 t-CO<sub>2</sub>）減少しています。
- 動力機器を保有する前早世浄水場をはじめとする浄水場、浄化センター等の上下水道施設での排出が24.7%を占めています。
- 排出量減少の主な要因としては、シーサイド温泉のうみが令和元（2019）年度に閉鎖したことによる電気使用量の減少や、電気の排出係数の低減（0.719⇒0.529 kg-CO<sub>2</sub>）が挙げられます。

年度	排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	基準年比
H26年度 (基準年)	6,488	-
R3年度	4,522	-30.3%
R4年度	4,502	-30.6%

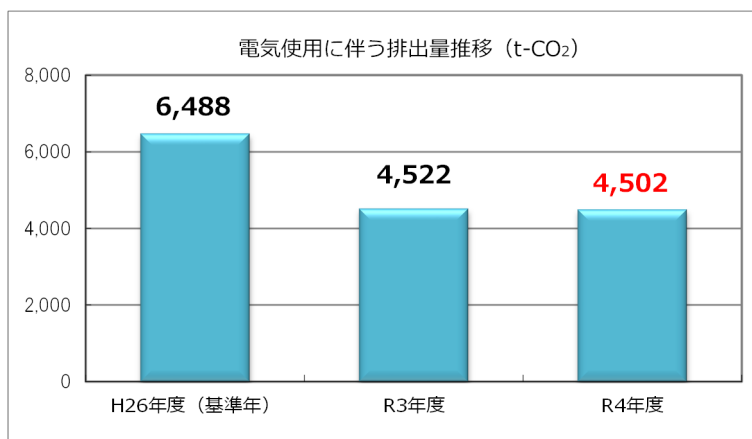


図 2-5 電気使用に伴う排出量推移

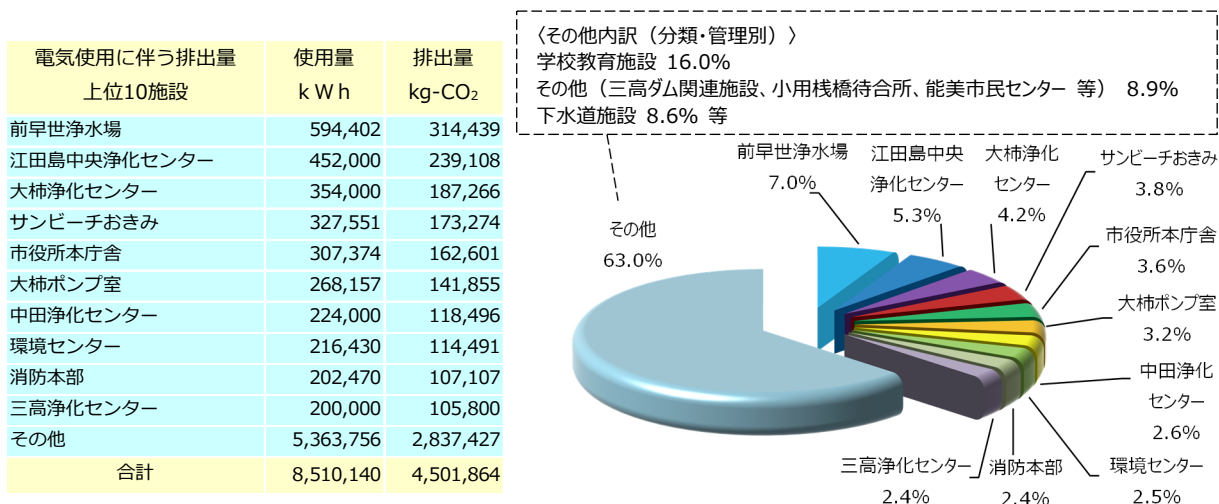


図 2-6 施設別使用量・排出量、排出構成 (上位10施設)

表 2-3 電気使用に伴う排出量増加施設（上位10施設）

電気使用に伴う排出量 増加施設		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (kWh)	使用量 (kWh)	使用増減量 (kWh)	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	サンビーチおきみ	116,793	327,551	210,758	89,300
2	江田島小学校	72,696	190,368	117,672	48,436
3	江田島中学校	111,834	196,338	84,504	23,454
4	大古小学校	70,474	138,270	67,796	22,474
5	認定こども園のうみ	24,416	74,763	50,347	21,995
6	認定こども園おおがき	31,946	74,512	42,566	16,448
7	鹿川小学校	57,436	103,504	46,068	13,457
8	大柿保健センター	5,696	26,931	21,235	10,151
9	内海集落排水施設	1,815	15,735	13,920	7,019
10	大柿老人福祉センター	55,834	86,629	30,795	5,682

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

表 2-4 電気使用に伴う排出量減少施設（上位10施設）

電気使用に伴う排出量 減少施設		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (kWh)	使用量 (kWh)	使用増減量 (kWh)	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	前早世浄水場	639,816	594,402	-45,414	-145,589
2	能美市民センター	260,566	109,585	-150,981	-129,376
3	江田島中央浄化センター	499,584	452,000	-47,584	-120,093
4	江田島市民センター	251,550	117,666	-133,884	-118,619
5	大柿浄化センター	384,529	354,000	-30,529	-89,210
6	大柿市民センター	76,982	29	-76,953	-55,335
7	大柿ポンプ室	269,286	268,157	-1,129	-51,762
8	環境センター	226,647	216,430	-10,217	-48,468
9	農村環境改善センター	185,569	166,543	-19,026	-45,323
10	前処理センター	171,634	154,031	-17,603	-41,922

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

## (2) ガソリン

令和4（2022）年度	184 t-CO <sub>2</sub> (基準年比14.1% 23 t-CO <sub>2</sub> )
-------------	--

- ガソリン使用に伴う排出は全体の3.6%を占めています。(6頁 図 2-2参照)
- 令和4（2022）年度の排出量は184 t-CO<sub>2</sub>となり、基準年比で14.1%（23 t-CO<sub>2</sub>）増加しています。
- 管理車両が多い財政課での排出が全体の44.4%を占めており、以下、サンビーチおきみ（23.9%）等が続いています。
- 排出量増加の主な要因としては、サンビーチおきみで施設利用者が増加したことが挙げられます。

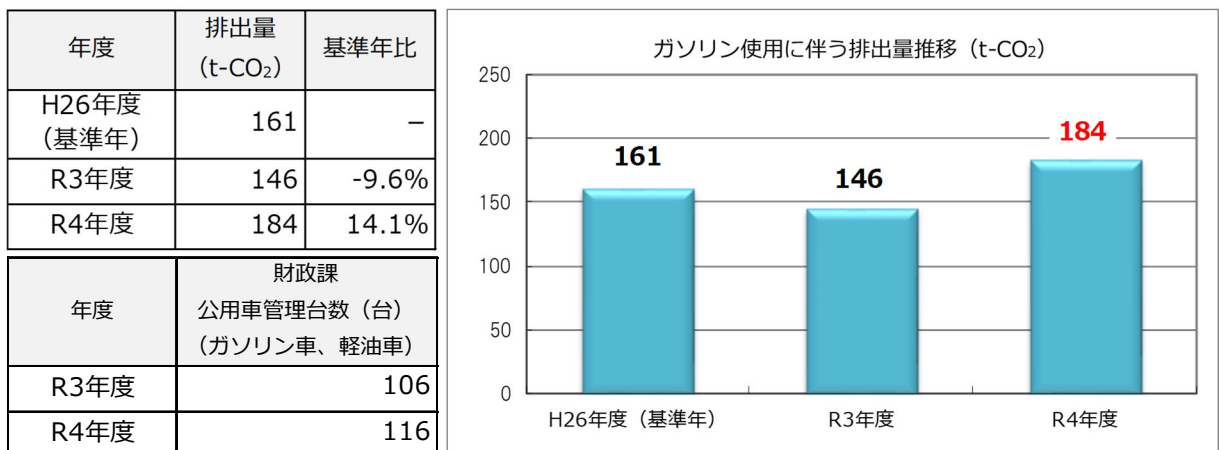


図 2-7 ガソリン使用に伴う排出量推移

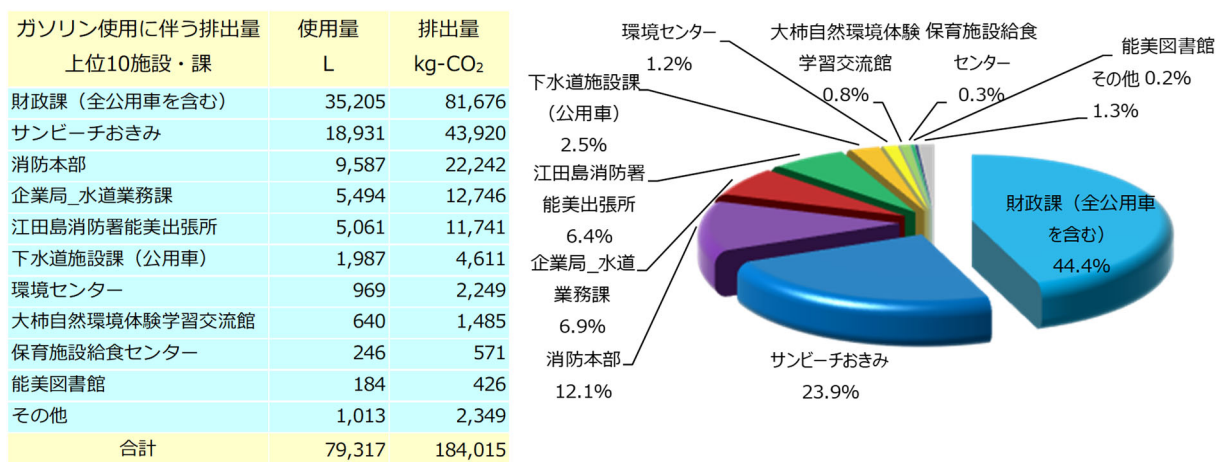


図 2-8 施設 (課) 別使用量・排出量、排出構成 (上位10施設 (課))

表 2-5 ガソリン使用に伴う排出量増加施設

ガソリン使用に伴う排出量 増加施設		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (L)	使用量 (L)	使用増減量 (L)	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	環境センター	756	969	214	496
2	江田島消防署能美出張所	4,908	5,061	153	354
3	矢ノ浦消防屯所	47	87	40	93
4	沖消防屯所	66	87	21	49
5	大古消防屯所	46	60	14	33
6	飛渡瀬消防屯所	52	63	10	24
7	大柿中学校	10	20	10	23

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

表 2-6 ガソリン使用に伴う排出量減少施設（課）（上位10施設（課））

ガソリン使用に伴う排出量 減少施設（課）		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (L)	使用量 (L)	使用増減量 (L)	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	財政課（全公用車を含む）	43,071	35,205	-7,865	-18,247
2	江田島学校給食共同調理場	401	70	-331	-768
3	大柿自然環境体験学習交流館	937	640	-297	-690
4	消防本部	9,860	9,587	-273	-633
5	大君消防屯所	198	24	-175	-405
6	リレーセンター	196	59	-137	-318
7	深江消防屯所	98	10	-88	-204
8	保育施設給食センター	315	246	-69	-161
9	切串消防屯所	101	31	-69	-161
10	三高消防屯所	226	158	-68	-157

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

### (3) A重油

令和4（2022）年度	175 t-CO <sub>2</sub> (基準年比▲65.4% ▲331 t-CO <sub>2</sub> )
-------------	---

- A重油使用に伴う排出は全体の3.4%を占めています。(6頁 図 2-2参照)
- 令和4（2022）年度の排出量は175 t-CO<sub>2</sub>となり、基準年比で65.4%（331 t-CO<sub>2</sub>）減少しています。
- サンビーチおきみでの排出が全体の41.8%を占めており、以下、江田島学校給食共同調理場（27.9%）等が続いています。
- A重油は、購入・補充のタイミングにより年間の使用量に変動があります。
- 排出量減少の主な要因としては、シーサイド温泉のうみが令和元（2019）年度に閉鎖したことが挙げられます。

年度	排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	基準年比
H26年度 (基準年)	506	-
R3年度	197	-61.2%
R4年度	175	-65.4%

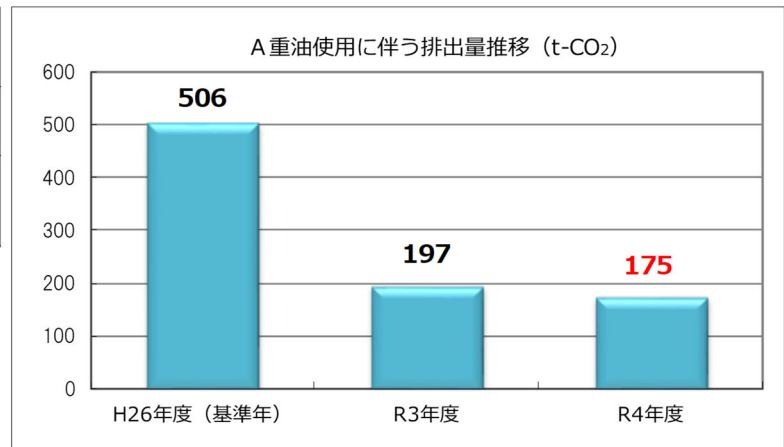


図 2-9 A重油使用に伴う排出量推移

A重油使用に伴う排出量 8施設	使用量 L	排出量 kg-CO <sub>2</sub>
サンビーチおきみ	27,000	73,170
江田島学校給食共同調理場	18,000	48,780
保育施設給食センター	8,770	23,767
農村環境改善センター	4,100	11,111
中町雨水排水センター	2,600	7,046
大原ポンプ場	2,570	6,965
大新開ポンプ場	1,000	2,710
鹿川ポンプ場	500	1,355
合計	64,540	174,903

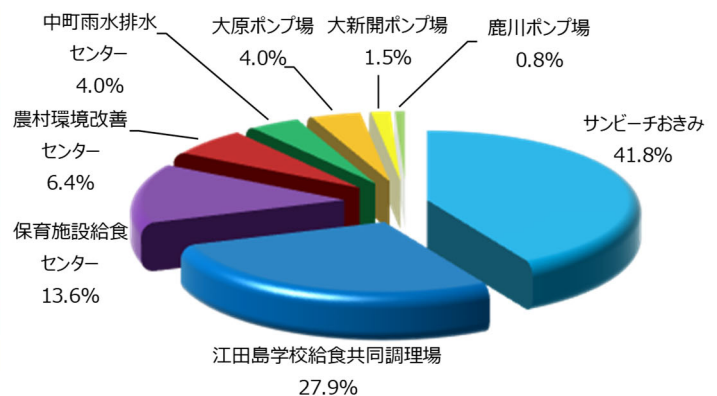


図 2-10 施設別使用量・排出量、排出構成

表 2-7 A重油使用に伴う排出量増加施設

A重油使用に伴う排出量 増加施設		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (L)	使用量 (L)	使用増減量 (L)	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	サンビーチおきみ	9,800	27,000	17,200	46,612
2	農村環境改善センター	2,050	4,100	2,050	5,556
3	大新開ポンプ場	500	1,000	500	1,355

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

表 2-8 A重油使用に伴う排出量減少施設

A重油使用に伴う排出量 減少施設		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (L)	使用量 (L)	使用増減量 (L)	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	江田島学校給食共同調理場	23,000	18,000	-5,000	-13,550
2	中町雨水排水センター	7,200	2,600	-4,600	-12,466
3	保育施設給食センター	10,850	8,770	-2,080	-5,637
4	大原ポンプ場	3,884	2,570	-1,314	-3,561

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

## (4) 灯油

令和4（2022）年度	110 t-CO <sub>2</sub> (基準年比▲28.1% ▲43 t-CO <sub>2</sub> )
-------------	--

- 灯油使用に伴う排出は全体の2.1%を占めています。(6頁 図 2-2参照)
- 令和4（2022）年度の排出量は110 t-CO<sub>2</sub>となり、基準年比で28.1%（43 t-CO<sub>2</sub>）減少しています。
- 施設規模の大きい葬斎センターでの排出が全体の70.2%を占め、以下、西能美学校給食共同調理場（21.7%）等が続いています。
- 排出量減少の主な要因としては、切串公民館での空調工事により暖房機器を使用しなくなったこと、認定こども園こようが平成29（2017）年度に閉園したことが挙げられます。

年度	排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	基準年比
H26年度 (基準年)	153	-
R3年度	116	-24.0%
R4年度	110	-28.1%

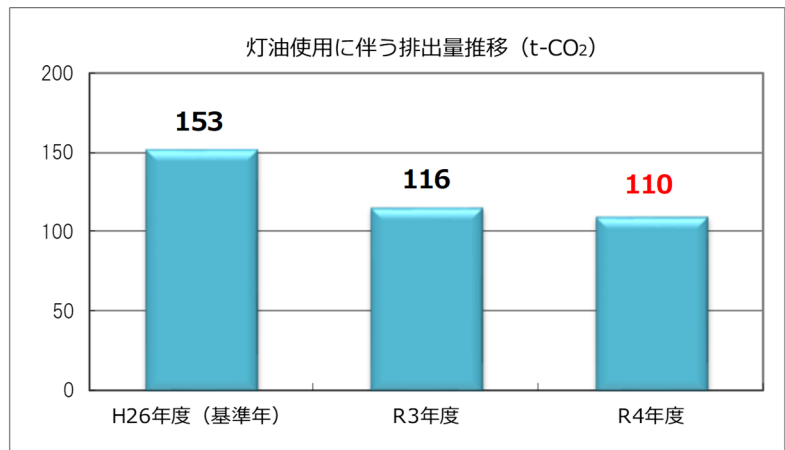


図 2-11 灯油使用に伴う排出量推移

灯油使用に伴う排出量 上位10施設	使用量 L	排出量 kg-CO <sub>2</sub>
葬斎センター	31,000	77,190
西能美学校給食共同調理場	9,578	23,849
大柿中学校	745	1,855
三高中学校	635	1,581
大古小学校	616	1,534
江田島中学校	396	986
三高交流プラザ	252	627
大柿自然環境体験学習交流館	234	583
江田島小学校	234	583
能美中学校	205	510
その他	258	642
合計	44,153	109,941

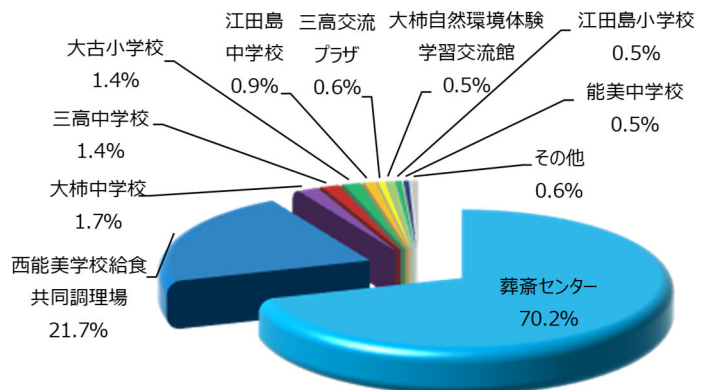


図 2-12 施設別使用量・排出量、排出構成（上位10施設）

表 2-9 灯油使用に伴う排出量増加施設

灯油使用に伴う排出量 増加施設		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (L)	使用量 (L)	使用増減量 (L)	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	葬斎センター	28,600	31,000	2,400	5,976
2	大古小学校	317	616	299	745
3	大柿自然環境体験学習交流館	190	234	44	110

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

表 2-10 灯油使用に伴う排出量減少施設

灯油使用に伴う排出量 減少施設		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (L)	使用量 (L)	使用増減量 (L)	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	切串小学校	1,006	20	-986	-2,456
2	鹿川小学校	1,106	180	-926	-2,306
3	西能美学校給食共同調理場	10,468	9,578	-890	-2,216
4	能美中学校	1,048	205	-843	-2,099
5	江田島小学校	966	234	-732	-1,823
6	江田島中学校	846	396	-450	-1,121
7	大柿中学校	1,081	745	-336	-837
8	消防本部	335	20	-315	-784
9	三高中学校	892	635	-257	-640

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

## (5) 軽油

令和4（2022）年度	108 t-CO <sub>2</sub> (基準年比▲14.6% ▲18 t-CO <sub>2</sub> )
-------------	--

- 軽油使用に伴う排出は全体の2.1%を占めています。（6頁図 2-2参照）
- 令和4（2022）年度の排出量は108 t-CO<sub>2</sub>となり、基準年比で14.6%（18 t-CO<sub>2</sub>）減少しています。
- 呉に可燃ごみを運搬する車両を保有するリレーセンターでの排出が全体の42.7%を占めており、以下、環境センター（20.6%）等が続いています。
- 排出量減少の主な要因としては、リレーセンターが保有している車両の稼働率が減少したことが挙げられます。

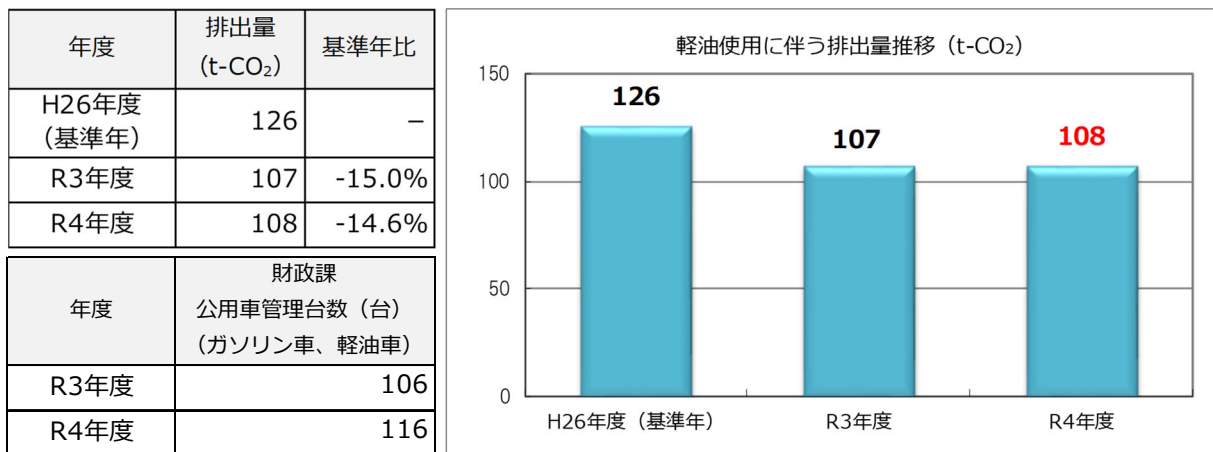


図 2-13 軽油使用に伴う排出量推移

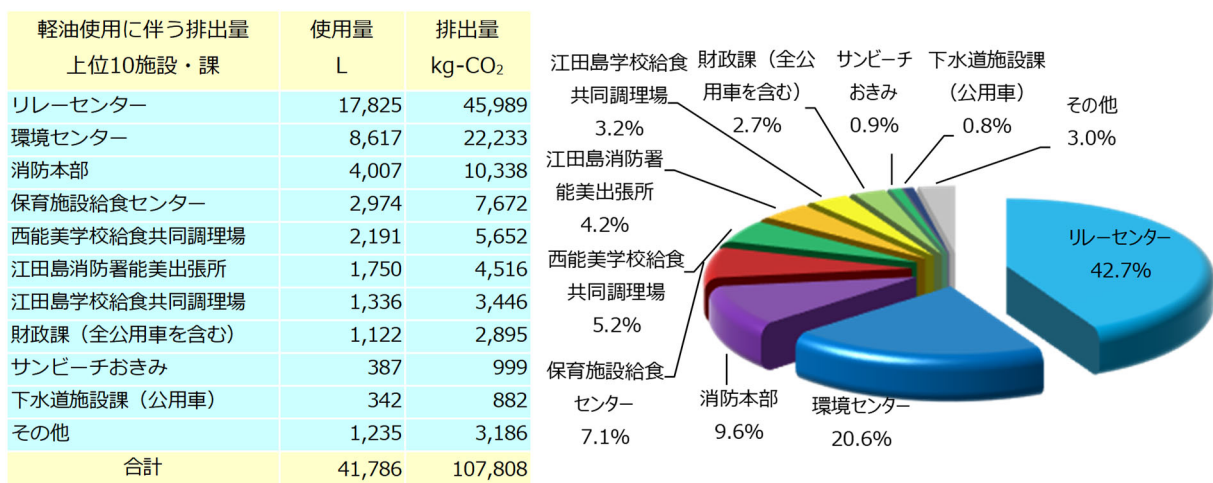


図 2-14 施設 (課) 別使用量・排出量、排出構成 (上位10施設 (課))

表 2-11 軽油使用に伴う排出量増加施設

軽油使用に伴う排出量 増加施設		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (L)	使用量 (L)	使用増減量 (L)	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	保育施設給食センター	497	2,974	2,477	6,390
2	西能美学校給食共同調理場	1,413	2,191	778	2,007
3	鷺部消防屯所	29	42	13	33
4	飛渡瀬消防屯所	58	60	2	5

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

表 2-12 軽油使用に伴う排出量減少施設（課）（上位10施設（課））

軽油使用に伴う排出量 減少施設（課）		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (L)	使用量 (L)	使用増減量 (L)	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	リレーセンター	22,956	17,825	-5,131	-13,238
2	財政課（全公用車を含む）	3,117	1,122	-1,995	-5,147
3	消防本部	5,262	4,007	-1,255	-3,238
4	江田島学校給食共同調理場	2,318	1,336	-982	-2,535
5	環境センター	8,997	8,617	-380	-980
6	江田島消防署能美出張所	2,113	1,750	-363	-936
7	中町消防屯所	107	50	-57	-146
8	前処理センター	380	334	-47	-120
9	大古消防屯所	89	47	-42	-107
10	小用消防屯所	50	20	-30	-77

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

## (6) LPG

令和4（2022）年度	58 t-CO <sub>2</sub> (基準年比▲67.8% ▲123 t-CO <sub>2</sub> )
-------------	--

- LPG使用に伴う排出は全体の1.1%を占めています。(6頁 図 2-2参照)
- 令和4（2022）年度の排出量は、58 t-CO<sub>2</sub>となり、基準年比で67.8%（123 t-CO<sub>2</sub>）減少しています。
- 保育施設給食センターでの排出が全体の19.3%を占め、以下、大柵老人福祉センター（16.4%）等が続いています。
- 排出量減少の主な要因としては、能美海上口ッジが平成29（2017）年度に閉鎖したことが挙げられます。

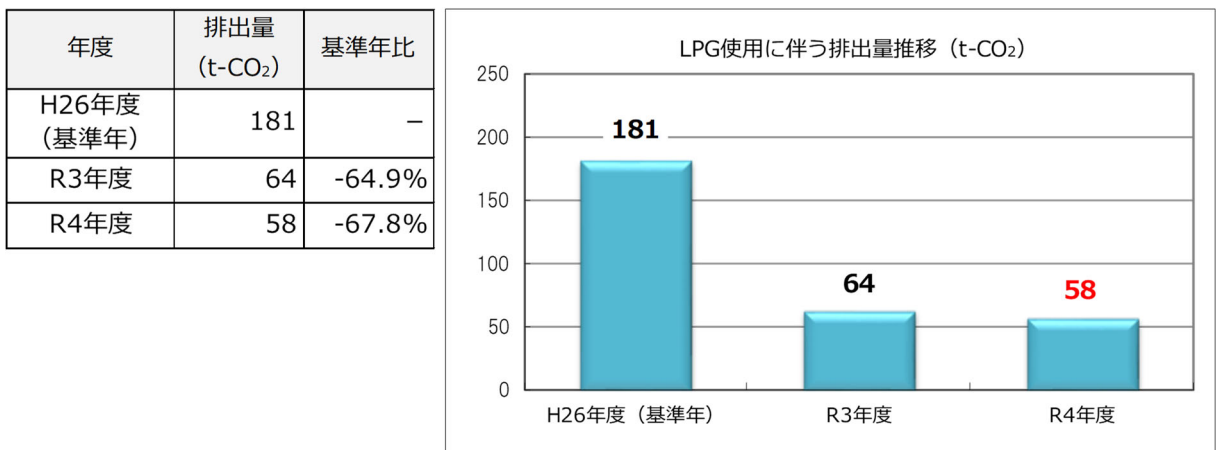


図 2-15 LPG使用に伴う排出量推移

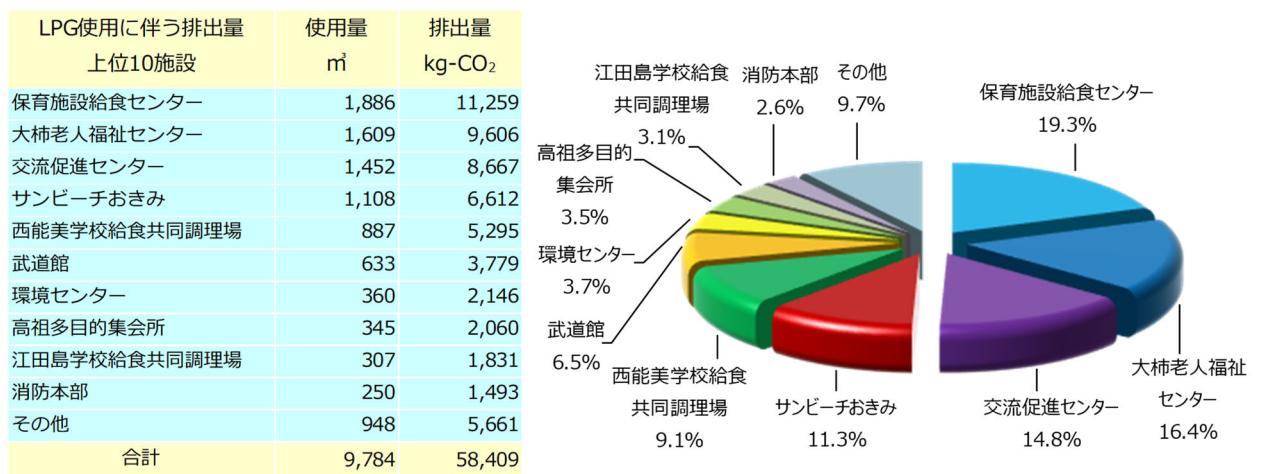


図 2-16 施設別使用量・排出量、排出構成（上位10施設）

表 2-13 LPG使用に伴う排出量増加施設

LPG使用に伴う排出量 増加施設		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (m <sup>3</sup> )	使用量 (m <sup>3</sup> )	使用増減量 (m <sup>3</sup> )	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	保育施設給食センター	807	1,886	1,079	6,442
2	サンビーチおきみ	331	1,108	776	4,633
3	消防本部	195	250	55	329
4	旧沖中学校	22	54	32	189
5	武道館	606	633	27	164
6	秋月交流プラザ	19	28	9	56
7	三高会館	8	11	3	17
8	フウド	17	18	0.8	5

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

表 2-14 LPG使用に伴う排出量減少施設（上位10施設）

LPG使用に伴う排出量 減少施設		平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比増減量	
		使用量 (m <sup>3</sup> )	使用量 (m <sup>3</sup> )	使用増減量 (m <sup>3</sup> )	排出増減量 (kg-CO <sub>2</sub> )
1	環境センター	740	360	-381	-2,273
2	西能美学校給食共同調理場	1,226	887	-339	-2,026
3	高祖多目的集会所	460	345	-115	-684
4	江田島学校給食共同調理場	405	307	-98	-585
5	大柿産品加工センター	214	119	-95	-565
6	能美市民センター	92	10	-82	-490
7	沖美産品開発センター	194	121	-73	-436
8	江田島コミュニティセンター	54	13	-42	-248
9	大柿市民センター	34	5	-29	-175
10	リレーセンター	32	3	-29	-173

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

## 4 排出量が増加した施設

令和4(2022)年度の温室効果ガス排出量は、サンビーチおきみをはじめとする63施設(課)において基準年比で合計約752 t-CO<sub>2</sub>増加しました。

表 2-15 排出量が増加した施設(課)

(単位: kg-CO<sub>2</sub>)

課・施設	平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比 増減量
1 サンビーチおきみ	112,511	297,976	185,465
2 江田島小学校	54,681	101,287	46,607
3 大古小学校	51,590	74,741	23,150
4 江田島中学校	82,533	104,852	22,319
5 認定こども園のうみ	18,887	39,550	20,663
6 認定こども園おおがき	23,400	39,557	16,156
7 大柿老人福祉センター	40,145	55,432	15,288
8 鹿川小学校	44,110	55,214	11,105
9 大柿保健センター	4,095	14,246	10,151
10 内海集落排水施設	1,305	8,324	7,019
その他	469,000	863,117	394,118
合計	902,256	1,654,297	752,041

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

### 【サンビーチおきみ】

- 電気 : 基準年比106.3%増加 (89,300 kg-CO<sub>2</sub>増加)
- A重油 : 基準年比175.5%増加 (46,612 kg-CO<sub>2</sub>増加)
- LPG : 基準年比234.2%増加 (4,633 kg-CO<sub>2</sub>増加)
- ガソリン : 平成29(2017)年度より使用量計上 (43,920 kg-CO<sub>2</sub>増加)
- 軽油 : 平成29(2017)年度より使用量計上 (999 kg-CO<sub>2</sub>増加)

基準年に対する排出量増加の主な要因は、施設稼働状況の変化による電気使用量の増加です。

### 【江田島小学校】

- 電気 : 基準年比92.7%増加 (48,436 kg-CO<sub>2</sub>増加)

基準年に対する排出量増加の主な要因は、施設稼働状況の変化による電気使用量の増加です。

#### 【大古小学校】

■ 電気 : 基準年比44.4%増加 (22,474 kg-CO<sub>2</sub>増加)

基準年に対する排出量増加の主な要因は、施設稼働状況の変化による電気使用量の増加です。

## 5 排出量が減少した施設

令和4(2022)年度の温室効果ガス排出量は、前早世浄水場をはじめとする201施設(課)において基準年比で合計約3,231 t-CO<sub>2</sub>減少しました。

表 2-16 排出量が減少した施設(課)

(単位: kg-CO<sub>2</sub>)

課・施設	平成26年度 (基準年)	令和4年度	基準年比 増減量
1 前早世浄水場	460,028	314,439	-145,589
2 能美市民センター	187,894	58,027	-129,867
3 江田島中央浄化センター	359,201	239,108	-120,093
4 江田島市民センター	180,864	62,346	-118,518
5 大柿浄化センター	276,476	187,266	-89,210
6 大柿市民センター	55,653	44	-55,609
7 江田島学校給食共同調理場	153,583	101,789	-51,793
8 大柿ポンプ室	193,617	141,855	-51,762
9 環境センター	192,345	141,120	-51,225
10 前処理センター	124,388	82,412	-41,975
その他	4,529,345	2,154,238	-2,375,107
合計	6,713,393	3,482,644	-3,230,748

※ 基準年と令和4年度で比較できる施設のみ掲載

#### 【前早世浄水場】

■ 電気 : 基準年比31.6%減少 (145,589 kg-CO<sub>2</sub>減少)

基準年に対する排出量減少の主な要因は、設備の稼働状況の変化による電気使用量の減少です。

### 【能美市民センター】

■ 電気 : 基準年比69.1%減少 (129,376 kg-CO<sub>2</sub>減少)

■ LPG : 基準年比89.6%減少 (490 kg-CO<sub>2</sub>増加)

基準年に対する排出量減少の主な要因は、平成 28 (2016) 年度に大柿分庁舎が本庁となり、電気使用量が市役所本庁で計上されることとなったことによる電気使用量の減少です。

### 【江田島中央浄化センター】

■ 電気 : 基準年比33.4%減少 (120,093 kg-CO<sub>2</sub>減少)

基準年に対する排出量減少の主な要因は、設備の稼働状況の変化による電気使用量の減少です。

## 第3章 実行計画の目標達成状況

### 1 目標達成状況

令和4（2022）年度の温室効果ガス排出量は5,137t-CO<sub>2</sub>となり、平成26（2014）年度（基準年）比で32.5%減少したことで、現状では削減目標（▲31.8%）を上回っています。

令和4（2022）年度

平成26（2014）年度（基準年）比 32.5%減少

### 2 今後の方針

江田島市の排出構成として電気使用に伴う排出が全体の87.6%を占めていることから、電気使用量の削減は温室効果ガスの削減には欠かせない要素です。

令和4（2022）年度の電気使用に伴う排出量は平成26（2014）年度（基準年）比で30.6%減少しているものの、実質の電気使用量の減少は5.7%に留まっていることから、今後も引き続き全職員で省エネ行動に取り組むとともに、新設・更新時の省エネ改修等のハード面の対策に取り組んでいくことが必要となります。

また、本年度実施した地球温暖化対策取組状況調査の結果では、「空調、換気に関する取組」及び「OA機器に関する取組」が他の取組に比べて実施率が低くなっていることから、今後も電気使用の削減に向けた取組の徹底が望まれます。（「地球温暖化対策取組状況調査結果」については、資料編23～28頁参照）

項目	平均実施率 (令和4年度)
空調、換気に関する取組	76%
照明に関する取組	90%
OA機器に関する取組	62%
その他の電力使用機器等に関する取組	82%